

第2回薬剤耐性(AMR)対策普及啓発活動表彰

AMR対策に必要な日本における抗菌薬使用動向の把握方法の 確立と普及活動における10年の取り組み

京都薬科大学 村木 優一

日本におけるこれまでの問題点

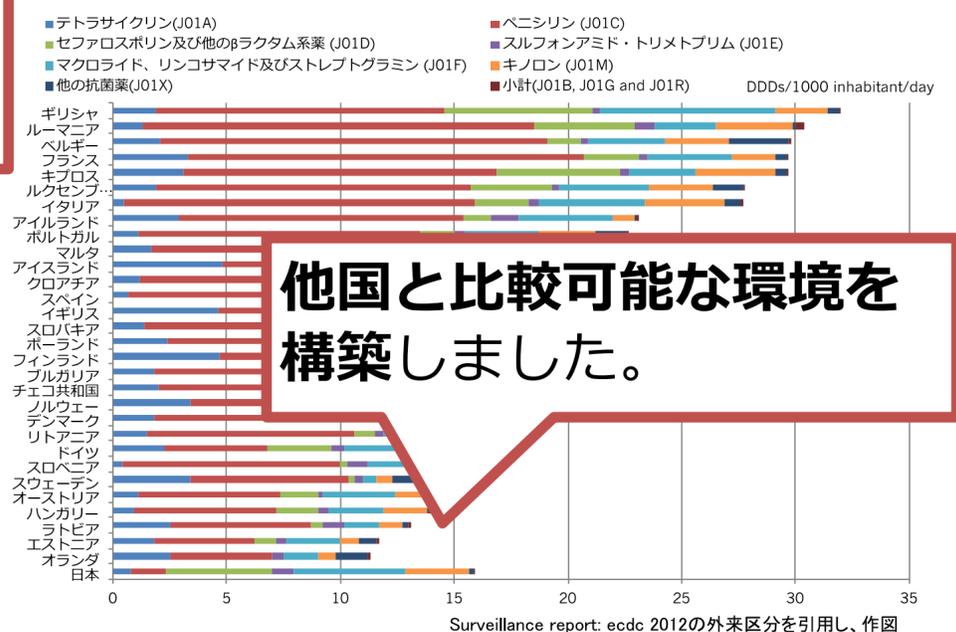
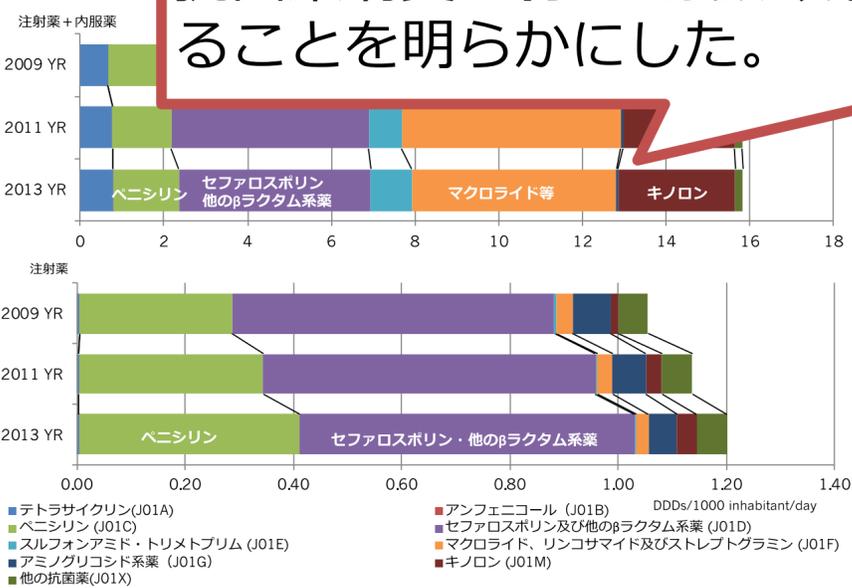
AMR対策を行ったプロセスを評価するための**重要な指標の1つである
抗菌薬使用動向**は、これまで明らかにされていなかった。



応募者の活動

日本の**抗菌薬使用動向**を把握するための方法を確立し、日本における抗菌薬使用動向を明らかにした。また、全国の薬剤師と共に継続して抗菌薬使用量を把握し続けられるよう活動を行っている。

抗菌薬消費の約90%は飲み薬であることを明らかにした。



他国と比較可能な環境を構築しました。

応募者におけるさらなる活動は、**行政、各医療機関における抗菌薬使用状況把握をより簡便なものとし**、様々な対策に対する評価指標の1つを提供できるようになります。その結果、**我が国におけるAMR対策の質的向上が期待され、耐性菌の発生防止を耐性化の抑止に貢献し、国民の生命を守ることに繋がり、世界に発信できるものになると期待できます。**